

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.5</b>	0.15	-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.9</b>	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能	外周部のサッシにT-2のサッシを採用	5.0	0.30	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能	教室間の間仕切りをRC、乾式壁は遮音等級(Dr=40)を採用	4.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		2.0	0.20	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	7.4m×4.8mスパンに分割 音楽室にはL-55の床材敷	4.0	0.20	3.0	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>	壁(有孔ボード)、天井(RWB)に吸音性の高い材料を採用	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.7</b>	0.25	-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	柱間を間口いっぱいのサッシ	5.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3 昼光利用設備	普通教室にライトシェルフを設置	4.0	0.40	3.0	-	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御	カーテンとライトシェルフの組み合わせよる	4.0	1.00	3.0	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.2</b>	0.25	-	-	-	-	<b>4.2</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	規制対象外・4つ星を採用。学校保健法の基準を下回る材料を採用	5.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>4.0</b>	0.20	-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	敷地内禁煙	5.0	0.50	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.3</b>	0.40	-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	0.50	-	-	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	耐久性の高さと清掃がしやすい仕上げ材料の採用	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	全教室に掃除用具、業務員室の設置。全てのトイレ内にSKの設置	4.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.31	-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.8</b>	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性	重要度係数1.25倍	4.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.3</b>	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管・VLP(B)、汚水排水・VLP(B)・VP(B)、給湯管CUP(D)、その他の配管も期待耐用年数15年以下のものは採用していない。	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルの採用 NTT、KDDIの2ルート化	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.29	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高:4.0m	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	片廊下の普通教室棟と中庭を囲む口の字型の特別教室棟	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	地下ピットを利用した配管スペース	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース	電気室のゆとりのあるスペースを確保	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	校舎棟を敷地東側に集約配置。空地率は、82.3%。2)- 既存樹木の保全 2)- 舗装率15.0%	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制			4.9	0.30	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	普通教室のすべてにライトシェルフの設置	3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化			4.9	0.30	-	-	4.9
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=34.6%	4.9	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材を地業、舗装部の路盤に採用。木部に集成材を採用	4.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	パーティクルボードを使用したユニットフロア、家具の採用	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		全熱交換機の採用。	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみ集積上の明確化。カンのコンポスト化を図る	5.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.2	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	0.20	-	-	-
3	日照障害の抑制	基本階数は3階建て。敷地境界からの離れを十分に確保し、1時間/2.5時間の日影ラインは、敷地内に収まる。	4.0	0.20	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告照明の設置はなし	4.0	0.70	-	-	-
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-